

令和2年第2回 石狩市下水道事業運営委員会会議録

開催日時 : 令和2年6月29日(月) 13:50~

開催場所 : 石狩市役所 本庁舎 5階 全員協議会室

出席者 : 余湖会長、小笠原副会長、小西委員、鎌田委員、長委員、玄野委員、堂柿委員、松原委員、赤間委員、塚野委員

欠席者 : 無し

説明委員等 : 高野水道担当部長、青木下水道課長、岡主幹、櫻井主査

傍聴者 : 佐藤 俊浩、三崎 伸子

【13時50分 開会】

青木課長より挨拶

鎌田副市長による「石狩市下水道事業経営戦略」の策定に係る諮問

鎌田副市長より挨拶

高野部長より挨拶

これより議事の進行は、余湖会長が行う

「石狩市下水道事業経営戦略」について、岡主幹より説明

小笠原副会長 : 6ページ、基本料金との関係で表-3について、実質的な使用料と条例上の使用料と違うのですか？

青木課長 : 全体の使用料分の有収水量で単純に割り返したものです。ただ、それを分析すると、基本水量以下の世帯が相当数いて、結果的には割高な使用料負担をしている世帯が一定数いるだろうという分析ができます。

長委員 : 特環だとか個排の事業の方たちは、1ヶ月あたり3,023円あるいは、3,470円を下水道料金として払っているということになるのですか？

青木課長 : 公共下水道も特環事業も個排も20トンの場合は、どの地域にお住まいでも条例上の使用料でいただいているので、高い料金をいただいている訳ではないです。

小笠原副会長 : 全国比較のためであれば、条例上の使用料の欄を削除して、そして実質的なというのをやめて、そして計算式を説明すればいいのではないのでしょうか？

余湖会長 : 6ページの一番下には書いてあります。図のすぐ下に説明付けましょうか？
文脈も、6ページの2行目、平成29年3月に平均6.28%の値上げとなる改定を実施しており、その結果、使用量は表-3のように繋がっているようにみえるので訂正します。

小笠原副会長 : 2ページの最初の公共下水道事業の白丸の一番最後、「現在は雨水管の整備及び老朽化した汚水処理施設の更新を進めている」というところで、頭の「現在」を取って、最後「更新を進めている」は、「更新を継続」と切った方が良いです。

小笠原副会長 : 9 ページで、右上の四角の説明の中、橙色の線で類似団体とありますが、これは人口規模のことですか？

青木課長 : 明確な基準ははっきりとして示すことが出来ないのですが、供用開始後何年という区分と人口規模の区分で、類似団体というグループ分けをされていて、その表現が総務省から通知されています。

余湖会長 : 8 ページのグラフで、維持管理費の計が 29 年度から減っています。札幌市の施設の維持管理負担金の減少があったということですが、これからも減るのではなく、これからまた逆に増えますというのが、この部分で言いたいことです。札幌市の維持管理負担金が減ったのはどうしてでしたか？

青木課長 : 石狩市と札幌市との間において、処理場の維持管理負担金というのがあります。これが下水道の計画汚水量の水量比で、建設負担金も維持管理負担金も水量見合いで負担しあいましょう、という考え方に基づいて協定等を結んでいます。平成 29 年に、協定の見直しがあり、維持管理負担金の石狩市の比率が落ちたことが大きい要因かと思います。

余湖会長 : また増えてくるのですか？

青木課長 : 計画汚水量等の見直しによっては、増える可能性はあります。

「汚水処理原価」について、青木課長より説明

鎌田委員 : 汚水処理原価は他団体を下回っていますとなっていますが、類似団体と他の団体違うのですか？

青木課長 : 統一します。

小笠原副会長 : 図-16、17 は関係ないのですか？管渠老朽化率がゼロですが下は既に改善しています。

青木課長 : まず老朽化率では、耐用年数 50 年を超えている管渠がどのくらいの比率あるのかというグラフです。管渠改善率では、まだ耐用年数をむかえてはいませんが、硫化水素による腐食が発生したので、箇所について更新したものがあります。

余湖会長 : 12 ページの特環について、経費回収率が極端に低いですが、主な原因はその上の処理原価が高すぎるからですか？

岡主幹 : 施設規模が大きい割に、立地条件的にも処理する人口が少ないためです。その上の施設利用率も関係してきます。大きい割には動かせていないので、経費が割高になっています。

「石狩市下水道事業経営戦略」について、岡主幹より説明（P16～）

鎌田委員 : 25 ページの収支計画について、料金収入については、改定後の料金収入ではないのですか？

岡主幹 : 改定する前の表です。使用料の見通しについては、このままいくと赤字になるという状態の収支計画で、令和 7 年からの 4 年間、使用料改定により収支均衡となった表に更新したもので、経営戦略を見直していくというような方向で考えています。

- 余湖会長 : 使用料改定は入れていないということを明記した方が良いです。
- 余湖会長 : 20 ページで、真ん中くらいに花川南地区の雨水管整備の話がありますが、令和元年度で 43%、12 年度末でも 48% で良いのですか？
- 青木課長 : 早期に 100% 目指すべきかとは思いますが、花川南地区の開発の成り立ちの経緯があり、道路整備もままならない形で引き継いだようなエリアが多く、現状は道路の排水機能がやっとあったような地区です。下水道でいけば、まず污水管を優先的に整備して、污水管の目途がたった段階で、雨水管の整備に着手していますが、雨水管はどうしても管径が大きくなってきて事業費も相当かかります。雨水管の事業費の財源的な部分でいけば、一般会計から負担もしていただかないといけない部分があり、その雨水管の整備と道路整備を早急に事業費をかけて、整備していくのが難しい部分があります。
- 余湖会長 : 雨水管の整備はあんまり補助金使わないのですか？
- 青木課長 : 雨なので、一般会計が一定程度財源持ってくださいという部分があります。ただ、国庫補助金の制度としては一定の管径以上は補助金をいただいて、1/2 の事業費で整備できるのですが、逆に言えば、400 ミリ未満の管径の管渠の延長も相当数の延長がございまして、補助金を利用しないで、市の起債事業で早急に整備していけるのかということ、財源的な問題もあるので、バランスを見極めて進めていかざるを得ないのが、現実です。交付金を活用しながら前に進んでいこうというのが、雨水管の状況です。
- 小笠原副会長 : 例えば、現時点で 100% にする必要はなく、道路側溝でも十分なところはあるのではないのでしょうか？だとすれば、雨水管の整備は 60% が目標ですとか、そのような言い方はできないのですか？
- 青木課長 : どこかの段階で、道路排水機能でもう十分だろうという議論があり得るかとは思いますが、下水道の立場とすれば、全部の管を整備しますということで下水道の事業認可をいただき、それに伴う流量計算からこの管を整備する必要がありますという形で補助金をいただいているのが現実です。
- 鎌田委員 : 5 ページの、C で下水道人口が 53,815 人となっているのですけれども、D の方で下水道水洗化人口って 53,538 人と少し落ちているのですが。この差は何ですか。
- 青木課長 : 処理人口は整備が済んで下水道を利用できる人たちの人数を指しており、下水道水洗化人口というのは実際に接続していただいた人口を指しております。整備が終わっているのですが、下水道の水洗化工事をしていない人口がいるという状況になります。
- 鎌田委員 : この表で、D の真ん中らへんに 6 人というのはなんですか？
- 青木課長 : 浄化槽処理人口です。本来は下水道に接続していただかないといけないのですが、下水道の整備区域以内にまだ浄化槽を利用されている世帯が 6 人います。
- 小西委員 : 21 ページの事業実施予定について、単位千円だと思うのですけれども、単位表示がないです。後、16 ページの人口推計について、よく市役所で社人研の人口推計使うのですが、これは市で作っている総計だとか、都市計画と整合性を取った形で、全部ここにも当てはめて使っているっていう形ですか？
- 岡主幹 : 大元は社人研の数値を使いますが、それに市独自の分析を含めた数値として計画をそれぞれ作っていると思います。しかし経営戦略については、減少幅が最悪になることを想定して社人研をそのまま使っています。

松原委員 : 花川南の空き地のところに昔からU字溝という、蓋のないところもあります。今回みたいにコロナなどが流行ってくると、そういうところの蓋の計画はないのですか？

青木課長 : 下水道の雨水管の設備としては今ある管を道路の下に埋めていくというような形になります。今あるU字溝に関しては、当時道路排水として整備されたもので、基本的に道路部局が管理する施設です。出入りされる場合には個人負担によって、蓋をかけていただくことになります。将来的には花川南地区にも下水道という雨水管が入って、道路の排水ができるような管を入れた後に関しては、U字溝は撤去できるような状況になると思います。

小笠原副会長 : 24ページの一番下、公費負担とすべきものと言っていいのですか。

岡主幹 : 下水道事業の原則として雨水は公費、下水は私費とはなるのですが、例えば汚水の資本費が高すぎて私費では賄いきれないとなれば、それは公費で負担すべきというような基準が曖昧な部分も公費で負担してもらえることになっているので、それについては、特環なり個排なりの事業の状況から適宜計算した上で、これは一般会計に負担をお願いしたいというような要請をしていかなければならないです。

青木課長 : 今の下水道の使用料体系が、公共下水道使用料に特環も個排も統一した使用料体系となっており、市の政策的な使用料統一なので、特環と個排のこの部分での赤字分は、基本的に下水道会計ではなく一般会計が負担するという部分も含めています。

余湖会長 : 文章を直すところがあるのですが、よろしければ、修正案については事務局と会長、副会長が確認し、その案でパブコメを実施してよろしいでしょうか。

余湖会長より審議が全て終了した旨報告。

青木課長より今後予定している運営委員会について連絡

【15時35分 閉会】

令和2年7月20日 会議録確認済み

石狩市下水道事業運営委員会

会 長 余湖 典昭